河北仙販「私の新聞オーディション」入選作品

2009年 第4号 12月16日 発行 総号数 46

ふくらく通信

発行者 菅野 香織

ご意見・ご感想はこちらへ
〒980-8529
仙台市青葉区一番町1-16-5
河北仙販内「ふくらく通信」まで
または、ネット版へ

河北新報社運営のウェブサイト「ふらっと」にてブログの「ふくらく通信・ネット版」を開設しています。「ふらっと」は会員登録無料で、会員はコメントの書き込みやメール等ができます。参加してみて下さい。

思い出 方 豊かに 言

人情の機微

いよいよ、今年も最後の月に入り、冬の乾いた冷たい風が、木々の落した葉を、転がしながら吹いています。寒風で冷えた後、湯につかって、ゆったり温まるのは大変快いものであります。

お風呂といえば……子供の頃、我が家のお風呂は、薪で焚いていました。

焚き口が、壁の向こうの外につっこんでおり、木製の風呂桶で、直ぐ脇に煙突がついていました。いわゆる、鉄砲風呂というものでしょうか。このお風呂は、中の湯が、上は熱く下は冷たいので、湯をよく混ぜてみないと適温が分かりません。そこで、よく、「お風呂、かまして、きて」と言われて、沸き具合を見に行ったものです。

「かまして」とは、「かます」ことであり、東北の方言です。「かます」は、「かき回して混ぜあわせる」という意味です。

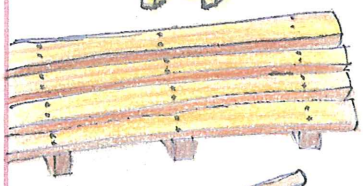
お風呂だけでなく、飲み物をかき回して混ぜあわせる時にも言います。

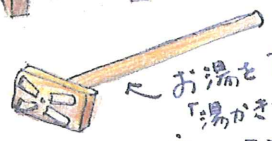
「おつゆ、かまさねど味、薄ぐなっと」（味噌汁をかき混ぜないと、味が薄くなるよ）などと、使いました。

ふと思い出せば、方言は、当時の暮らしのぬくもりまで、鮮明に心に残す言葉なのだなぁと、気がつきます。

方言は、思い出を豊かにしてくれる言葉だと思いました。それは、人情の機微に豊む、美しい言葉です。

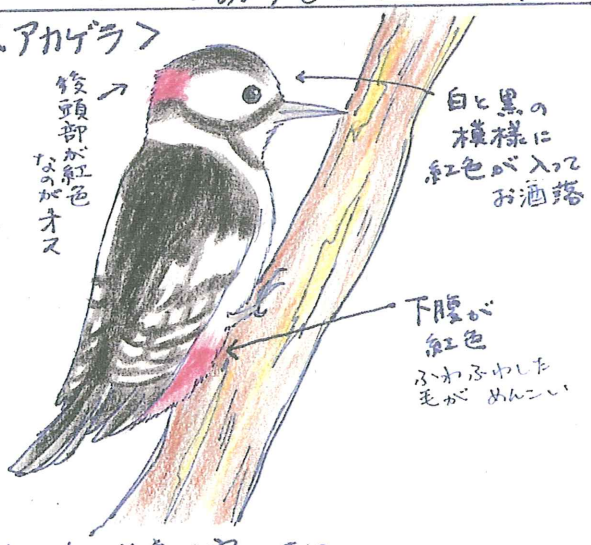
方言という、ぬくもりのある言葉に恵まれて、嬉しく思いつつ、そうした言葉も大切にしてつなぐよう、時々、あえて使っていきたいと思っています。





お湯をかます道具もあった
「湯かき棒」というらしいが、家では「ふろかまし」とか何とか言っていたような気がする。

鳥つこみつけ隊報告書

冬鳥がやって来て
くつろいだ様子の広瀬川
寄り州や中州の木々にも、
餌をついばみに来る、小鳥の
姿が見える。

カツカツ……と、乾いた音が
聞こえてきて、音のする方を見たら
「いた！」
黒い模様に、際立つ紅の
きれいなキツツキ「アカゲラ」が
いました。
青葉山から、広瀬川まで来るようです。
広瀬川の林と水は、人にも生き物にも、大事な宝ですね。